

竹原PR大作戦Ⅱ ― 竹原のまちはわたしたちが創る！ ―

本単元で育成する資質・能力

知識・技能の習得、課題発見・解決力、主体的な態度

- 1 日 時 令和5年7月6日（木）第2・3校時
- 2 学 年 第5学年 26名
- 3 場 所 5年1組教室
- 4 授業づくりの視点

○研究のテーマ

自ら学ぶ児童の育成
～「なぜだろう」「やってみたい」につなげる授業づくりを通して～

○単元について

竹原は、平安時代、京都の下鴨神社の荘園として栄えた歴史から「安芸の小京都」とも呼ばれ、校区には国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定された町並み保存地区があり、観光名所になっている。しかし、竹原を訪れる観光客は西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染症の影響により減少している。この減少に歯止めをかけ、観光客数の増加につなげるため、竹原市は「竹原市観光振興計画」を策定し、取組を進めている。また、メディアや旅行会社主催の企画ではなく、地域住民が主体的に地域の魅力を発信し、地域活性化を目指して活動を展開している団体もある。

本単元は、探究課題「町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々の思いや願いと組織の取組」を踏まえて構想した単元である。竹原の古い町並みや文化を後世に残すために、地域住民が主体となって様々な取組や活動をしていることを理解するとともに、自分たちも地域の一員として町づくりや地域活性化につながる取組や活動を考え、実行することを通して、新しい竹原の魅力について発見し、日々の生活の中で地域との関わり方を考えるきっかけをもつことを目指す。

○児童について

総合的な学習の時間の本単元に関わる事前の意識調査の結果は以下の通りである。

質問項目	肯定的評価
自分の住んでいる地域のことが好きです。	88%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあります。	42%
解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思っています。	63%
解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。	67%
自分の考えを積極的に伝えていきます。	42%
学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	71%

児童は、第3学年「竹原PR大作戦Ⅰ」において、校区の自慢できる場所を調査し、まとめる活動を行っている。第4学年では、自慢の地域を守るために、みんなが安心・笑顔になる町について考えてきた。児童は、これまで地域の人・もの・ことと関わりながら学習を進めてきたことで、自分が住んでいる地域のよさに気付いている。一方で、コロナ禍のため地域で活動することが難しかったこともあり、校区にある町並み保存地区に行ったことがない児童もあり、地域のよさについては写真など資料による理解に留まっている。町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人と関わり、学習を進めることを通して、これまで知らなかった地域のよさや魅力を発見できるようにしていく。

本校で育成を目指す資質・能力の課題発見・解決力について、解決しようとする課題について「なぜだろう」「やってみたい」と思っている児童は6割程度で、課題を自分の事として捉えることが難しい児童が数名いる。自分の住んでいる地域については好きな児童が多く、地域のよさに気付いていることから、児童は地域の問題にも関心があると考えた。そこで、地域の問題を取り上げ、地域の人と繰り返し関わることを通して、「地域の問題をどうにかして解決したい。」という課題意識をもつことができるようにする。

また、竹原中学校区で育成を目指す資質・能力（キャリア教育の資質・能力）の表現力についても、半数以上の児童が自分の考えを伝えることに苦手意識をもっている。このことから、自分の考えを話す機会を設定していく。

○「なぜだろう」「やってみたい」につなげる授業づくりについて

①探究的な学習の充実

- ・観光客が減少しているという地域の現状と児童が思い描く竹原が活性化した理想の状態を比較することや、町づくりや地域活性化を目的に活動している人と対話をするを通して、観光客が減っているという地域の問題を自分の事として捉え直すことができるようにする。
- ・「地域の問題をどうにかして解決したい。」という課題意識をもつことができるようにするために、対話を活用し、児童と地域の人が互いの思いを伝え合って理解し合い、合意した上で、単元全体を通して解決を目指す課題を設定する。
- ・地域の人の案内で町並み保存地区を見学したり、観光客にインタビューをしたりするを通して、地域のよさや魅力についての情報を集めることができるようにする。
- ・実現可能なPR活動にするために対話を活用する。地域の人のアドバイスを基に、自分の考えを見直し、修正したり、新たなアイデアを考えたりすることができるようにする。

②「問い」へつなげるための発問・手立ての工夫

- ・課題設定の場面と学習の途中に「児童と地域をつなぐ対話」の場を設定する。対話を活用することで、課題意識をもつことができるようにするとともに、現実問題に即して自分の考えを見直すことができるようにする。
- ・単元の導入で、竹原市の観光客が減少していることを知らせる新聞記事を活用し、「なぜだろう。」を発見することで、次の時間以降の「本時の課題」につなげる。
- ・「単元全体を通して解決を目指す課題」の設定後に、何を調べていく必要があるか考える時間を設定することで、学習の見通しをもつことができるようにする。
- ・新たな疑問やさらに詳しく調べていきたいことを振り返りに記入し、毎時間の授業の導入で紹介することを通して、「本時の課題」を設定することができるようにする。
- ・児童の振り返りから、児童の課題意識や思考に寄り添い、「やってみたい。」を引き出すことができるように単元計画を見直す。また、単元の終わりには、学級全体で決めたPR活動を実行することができるようにする。

5 単元の目標

町並み保存地区を活かしたPR活動を実行することを通して、町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々の思いや願いを理解し、地域のよさや魅力を伝えるために地域の一員としてできることを考えるとともに、地域との関わり方を考えるきっかけをもつことができるようにする。

6 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資質・能力	知識・技能の習得	課題発見・解決力	主体的な態度
本単元	①竹原市の町並み保存地区には、地域にしかない歴史や文化があり、それらを後世に残すために、様々な立場の人々や組織が支え合い、協力し合って、魅力ある町づくりに取り組んでいることを理解している。 ②相手や場面に応じた言葉遣いや態度で、観光客や地域の人と適切に関わっている。 ③地域にしかない歴史や文化のよさへの理解は、地域の人、もの、ことと関わりながら探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	①竹原市の観光客数の目標や地域の人のお話から課題を設定し、解決の見通しをもって学習計画を立てている。 ②課題の解決に必要な情報を町並み保存地区の見学やインタビュー等による調査活動を通して収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③自分で考えたPR活動が実現可能かどうか、お金、準備、時間等の視点を基に、他者と比較したり、関連付けたりしながら確かな理由や根拠をもち、PR活動を見直している。 ④地域のよさや魅力を広めるために、目的や相手に応じた表現方法の選択や内容の構成を工夫して表現している。	①PR活動実行に向けて、自分の考えを見直したり、他者の考えを認めたりしながら、課題を解決しようとしている。 ②PR活動実行に向けて、観光客に「もう一度行きたい。」と思ってもらえるPR活動を他者と協働しながら考え、観光客の誘致に進んで取り組もうとしている。 ③PR活動を実行することを通して、自分も地域の一員であることを自覚し、これからの町づくりや地域活性化のためにできることを考え、地域に働きかけようとしている。

7 単元計画（20 時間）

次	時	学習活動	主発問（○）や引き出したい児童の反応（・）	知	思	態	評価方法
1 課題の設定	1 2	自分が思い描く竹原の理想の状態から現実を捉え直し、どんなPR活動をしたか考える。	○竹原市の目標は、2027年に143万人の観光客に来てもらうことです。この目標は達成できると思いますか。どうしたら達成できると思いますか。 ・コロナが収まっていて、旅行に行く人も増えていると思うから、できると思う。 ・2022年が69万人で、5年間で143万人は難しいと思う。 ・竹原の魅力が全国の人に伝わらなければ、無理だと思う。		①		ワークシート
	3 4	【児童と地域をつなぐ対話】 児童と地域の人が合意した上で、単元全体を通して解決を目指す課題を設定する。	○地域の人話を聞いて、どんなことを思いましたか。 ・「観光客を増やす」と言葉で言うのは簡単だけど、簡単に増えるわけではないと思った。 ・昔から残った家を壊すのではなく、きれいに残していきたい。 ・竹原のことをもっと知ってもらいたいという気持ちが分かった。 ・2027年の143万人は、そんなに簡単な話ではないと思った。でも、観光客を増やしていきたい。				ワークシート 行動観察
	5	学習計画を立てる。	○インターネットや本で調べるのは、全国の人にも調べられるのではないのでしょうか。 ・自分たちが実際に見学や体験してみたい。 ・観光客の人にインタビューをして聞いてみたい。				ワークシート
	6 7	町並み保存地区を見学し、竹原のいいところの情報を集めている。	○町並み保存地区の見学で、どんなことを発見しましたか。 ・いろいろな地域から観光客が来ていることに驚いた。 ・竹原の文化を伝えたい。塩作りで盛んだったこと、日本酒を作っていること、和風の建物を観光客に伝えたい。 ・竹で物を作っているのを見て、竹で作った物を観光客にプレゼントしたい。		②		ワークシート 行動観察
2 情報の収集 整理・分析	8 9	町並み保存地区の見学を通して得た情報を整理し、どんなPR活動ができるか考える。	○町並み保存地区の見学を通して、伝えたいことベスト1は何ですか。 ・旧笠井邸は150年前に建てられ、釘を1本も使っていないこと。 ・照蓮寺の門には、木彫りの龍があること。 ・照蓮寺の屋根に鬼瓦があること。 ・藤井酒造のお酒がG7サミットの乾杯に使われたこと。 ○観光客に竹原のいいところを伝え、「楽しかった。」と言ってもらうために、どんな活動をしますか。 ・竹原のいいところを伝えながら、竹細工を作る体験をしたり、プレゼントしたりする。 ・目的に合わせて観光客にプレゼントするものを変える。お酒を目的に来た人には、お酒を渡し、竹を目的に来た人には、竹の飾りをプレゼントする。	①			ワークシート

	10	実現可能なPR活動にするための視点を考える。	○みんなの考えから、「これいいな。」「これは難しいかもしれない。」というものはあります。 ・マッサンの仮面は、著作権で難しそう。 ・アヲハタジャムは高いので、無料で作るのは難しいと思う。 ・和を感じられるのはいいと思う。				ワークシート
	11	他の地域のPR活動や小学生がしているPR活動を調べる。	○新しい取組を考えるために、他の市がどんなことをしているのか調べてみましょう。 ・宝探しのようなことをしていた。 ・外国人に地図を配り、おもてなしをしていた。 ・イベントや祭りを開いていた。				ワークシート
	12	グループで企画書を作る。	○みんなが納得できるような企画書にするためには、どうすればいいでしょう。 ・みんなが納得できるような理由を考える。 ・竹原のいいところを伝え、「楽しかった」と言ってもらう活動になっているか考える。 ・PR活動を考える際のポイントを意識する。				ワークシート 行動観察
	13 14 (本時)	【児童と地域をつなぐ対話】 地域の人の意見を基に、実現可能なPRかどうか、お金・準備・時間等の視点で自分の考えを見直す。	○（観光客がいない写真を見せて）この状態で、今考えている活動を実行できるでしょうか。 ・観光客がいなかったときのことを考えないといけない。 ・せっかく実行しようとしても、観光客が来なかったら意味がない。 ○「この企画なら実現可能」「この企画は難しい」「もっとこうすれば…」という視点で意見を出し合ひましょう。 ・竹細工は、自分たちには教えられないし、お金もかかるから難しいと思う。でも、竹の置物ならできるかもしれない。 ・宝探しは、観光客がいなかったら難しいと思う。 ・観光スポットに、パンフレットを置くことはできるかもしれない。			③ ①	ワークシート 行動観察
	15	地域の人の意見を基に、「5年生の企画書」を作る。	○前回の授業で、みんなが困ったことは何ですか。 ・お金がない。 ・時間がない。 ・人がいない。 ○それぞれの活動の良さを生かし、問題点を整理して、「5年生の企画書」を作りましょう。 ・カードなら時間もお金もかからない。 ・「ありがとう」とカードに書いて、「来てくれてありがとう」と言って渡せばいい。 ・竹原のいいところを書いたカードなら、一人に2、3枚は作ることができると思う。			③ ①	ワークシート
3 まとめ・表現	16 17	PR活動実行に向けて準備をする。	○今日の課題は、どうしますか。 ・カードを作ろう。 ・観光客が喜ぶカードを作ろう。 ・観光客が気に入るカードを作ろう。		④	②	カード ワークシート 行動観察

18 19	観光客や地域の 人 と 関わり、PR 活動 を 実行する。	○どんなことをがんばりますか。 ・今まで考えて、準備してきたので、許可をもらえるようにがんばりたい。 ・上手に話して、許可をもらいたい。 ・竹原PR大作戦を成功させるために、しっかりお願いする。	②			ワークシート 行動観察
20	学習を振り返る。	○学習を終えて「竹原のいいところは？」と聞かれたら、どのように答えますか。 ・町並み保存地区。歴史のある建物がたくさん残っていて、塩づくりで栄えたことにより発展した。そして、何よりもこの建物や町並みを地域の人たちが守り、残してきたことに驚いた。この町並みをこれからも守っていききたい。 ○単元を終えて、自分自身はどのように成長したと思いますか。 ・あきらめかけたこともあったけど、みんなで意見を出し合って、PR活動が実行できてうれしかった。これからは、あきらめそうになったときも、しっかり考えていきたいと思った。	③		③	振り返りシート

【単元構想シート】作成者（ 植竹 桜 ）

「本質的な問い」（カリキュラムを構成する質問の三つの階層）の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構想する準備をしてみましょう。

第5学年

総合的な学習の時間

単元名「竹原PR大作戦Ⅱー竹原のまちはわたしたちが創る！ー」

① 本質的な問い （何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

地域のために、何ができるだろうか。

② 単元を貫く問い （単元を通して考え深めていく「問い」）

竹原をPRするために、自分たちには何ができるだろうか。

③ 個別の問い （単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）

「なぜ竹原を訪れる観光客は増えたり、減ったりしているのだろう。」
「観光客に竹原のいいところを伝えるためには、どんな活動ができるだろう。」
「他の地域ではどんなPR活動をしているのだろう。」
「自分たちには、どんなPR活動ができるだろう。」

単元計画の
構想を立てる

指導案7「単元計画」参照

8 本時について【単元計画 13・14】

(1) 本時のねらい

地域の人の意見を基に、実現可能なPRかどうか、お金・準備・時間等の視点で自分が考えたPR活動を見直すことができる。

(2) 評価規準

自分で考えたPR活動が実現可能かどうか、お金、準備、時間等の視点を基に、他者と比較したり、関連付けたりしながら確かな理由や根拠をもち、PR活動を見直している。【思③】

(3) 学習の展開

発問等(○)と子供の姿(・)	教師の働きかけとねらい
○前時の振り返りの紹介 【グループで考えることのよさ】 ・意見を組み合わせたら、もっといい案ができた。 ・みんなで意見を出すと、いい企画ができた。 ・みんなのアイデアをまとめたり、合わせたりしたら、いい企画になると思った。 【次の時間に向けて】 ・地域の人に自分たちの班の意見を納得してもらいたい。 ・地域の人に自分たちの気持ちを伝えて、納得できるようにがんばりたい。 ・みんなの案を聞き、みんなの案のいいところを自分たちの案に加えて、みんなが「納得」「いいね」と思う案にしたい。 ・考え方が違う人がいても理由をしっかりとったり、自分の意見をしっかりとったりして、納得させることはできるかもしれない。 ○今日の課題はどうしますか。 意見を出し合って、納得できる活動を考えてよう。 ○対話の手順の確認をします。 ①グループの考えを説明 ②地域の人から ③みんなで考える ○自分たちの企画を説明しましょう。 ①的あてクイズ大会 ◎子供は喜ぶ。 ▲竹まつりならできる。観光客には…。 ②竹で船を作る。 ◎夏、涼しさを感じる。 ▲観光客に向けてはどうなのか。 ③竹細工コーナー ◎はし、竹とんぼならできる。 ▲竹工芸さんが作ることになる。小学生には難しい。 ④竹のグッズとパンフレット ◎竹のはし、器はできる。 ▲保護者は買ってくれるが、売るレベルにはならない。 ⑤竹細工体験＋パンフレット ③④と同様 ⑥迷路・スタンプラリー ◎竹原市に依頼すれば、景品は準備できる。	●竹原市の観光推進イメージ（竹小版）を示し、単元全体を通して考える課題の解決を目指していること、現在の学習の状況を確認する。 ●前時の振り返りを紹介する際には、個人で考えるよりも、グループで考えた方が「よりよい企画になった。」というものを取り上げ、みんなで考えることのよさに気付くことができるようにする。 ●地域の人との対話に向けてがんばりたいことや活動案を決める際のポイントが書かれたものを紹介し、対話への意欲をもつことができるようにする。 ●児童の振り返りの言葉から本時の課題につなげる。 ●地域の人には、グループごとに「お金」や「準備」、「時間」などの視点で意見をもらう。また、地域の人々の体験を話してもらうことで、活動を実現させることの難しさを実感できるようにする。 ●地域の人々の意見から、それぞれの活動のよさと難しさを板書に整理し、前時に使った「活動を考える際のポイント」を書いたカードを貼っていく。

▲景品を自分たちで準備するには、お金がかかる。

▲迷路→作るのが難しい。

⑦宝探し

◎たけのこほり→里山でできる。

▲住んでいる人の家に勝手に入られると迷惑。

⑧宝探し

⑦と同様。

◎地域の人の意見を聞き、どう思いましたか。

- ・自分たちの企画は、お金のことを全然考えていなかった。
- ・素人が竹細工を教えることはやっぱりできないかもしれない。
- ・どうしたらいいのか分からなくなった。
- ・新しいプロジェクトを考えたい。

◎（観光客がいない写真を見せて）この状態で、今考えている活動を実行できるのでしょうか。

- ・観光客がいなかったときのことを考えないといけない。
- ・せっかく実行しようとしても、観光客が来なかったら意味がない。

○①から⑧の企画の「ここ使える！」「ここは難しいけど、こうすれば…」を考えましょう。

【①②の企画】

- ・クイズを出すことはできる。
- ・子供向けになっているから、子供から大人まで考えられるものにしていかないとけない。

【③④⑤の企画】

- ・竹細工はやっぱり難しそう。
- ・竹を取り入れたかった。
- ・パンフレットなら「いいところ」は取り入れられそう。

【⑥⑦⑧の企画】

- ・町並み全体を歩くことができる。
- ・地域の人に迷惑がかからないようにしないといけない。
- ・スポットを決めたらいいかもしれない。

「問い」へつなげるための発問

- 地域の人の意見を聞いた率直な感想をワークシートに記入し、「難しい。」「できないかもしれない。」「という意見から取り上げる。」「どうする？」「あきらめる？」と問いかけ、「新しいプロジェクトを考えたい。」「という意見につなげていく。

「問い」へつなげるための発問

- 今後の活動時間を知らせ、実行予定日の町並み保存地区の観光客の様子を想像させた上で、再度、「どうする？」「あきらめる？」と問いかける。

- グループの意見を「組み合わせる」「まとめる」「加える」ことで企画を考えてきたこと、グループで話し合って企画を改良してきたことを振り返り、解決の見通しをもつことができるようにする。

- ①から⑧の企画の内容をもとに、「使えるところ」「難しいところ」「改良できるところ」を考えることができるようにする。

自分が考えたPR活動が実現可能かどうか、お金、準備、時間等の視点を基に、他者と比較したり、関連付けたりしながら確かな理由や根拠をもって、PR活動を見直している。【思③】（ワークシート）

探究的な学習の充実

- 自分たちが活動を考える上で、こだわりがあったところやその活動を考えた理由を問いかける。また、それぞれの活動が「単元全体で解決を目指す課題」の「竹原のいいところ」を伝える活動になっているか。「楽しかった」と言ってもらえる活動になっているか。」を問いかけ、自分たちが目指す活動になっているかを考えることができるようにする。

- 児童の発言をキーワードでまとめていき、みんなの意見を「組み合わせる」「まとめる」「加える」ことができないかを問いかけ、次時の授業につなげる。

- 振り返りの視点として、「今日の授業で考えたこと」「明日は…」を示す。

(4) 板書計画

7/6 竹原PR大作戦Ⅱ ① 意見を出し合っ、納得できる活動を考えよう。	竹原PR大作戦Ⅱの目標 観光客に竹原のいいところを伝えて、「楽しかった!」と言ってもらう活動にしよう。 ① 竹原のいいところを伝える活動 ② 「楽しかった!」と言ってもらう活動	{ ここ使える! ここは難しいけど...
① 的当てクイズ大会 ○ 子ども向け △ 観光客には... 相手 子ども〜大人まで	③ 竹細工コーナー いいところ ○ はし、竹とんぼならでできる。 △ 竹工芸さん(大人) 小学生には... かんたん 作り方	⑥ スタンアラリー・めいろ ○ 切なみ全体 △ 景品のお金 △ めいろ→ 難しい。 お金 時間 準備
② 竹で船 ○ 夏 すずし 子ども向け △ 観光客には...	④ 竹のグッズ+パンフレット いいところ ○ はし、うつわ おうちの人なら △ 売るレベル できばえ	⑦ 宝さがし ○ たけこ山 △ 住民にめいわく ポイント決める ⑧ 宝さがし <u>人が来なかったら</u>
⑤ 竹のものづくり+パンフレット アイデア ⇒ 組み合わせる・まとめる・加える ⇒ 納得! いいね! 難しい! ⇒ もっとこうすれば... 改良		